

## 東草野の山村景観

# 石臼生産遺跡 1

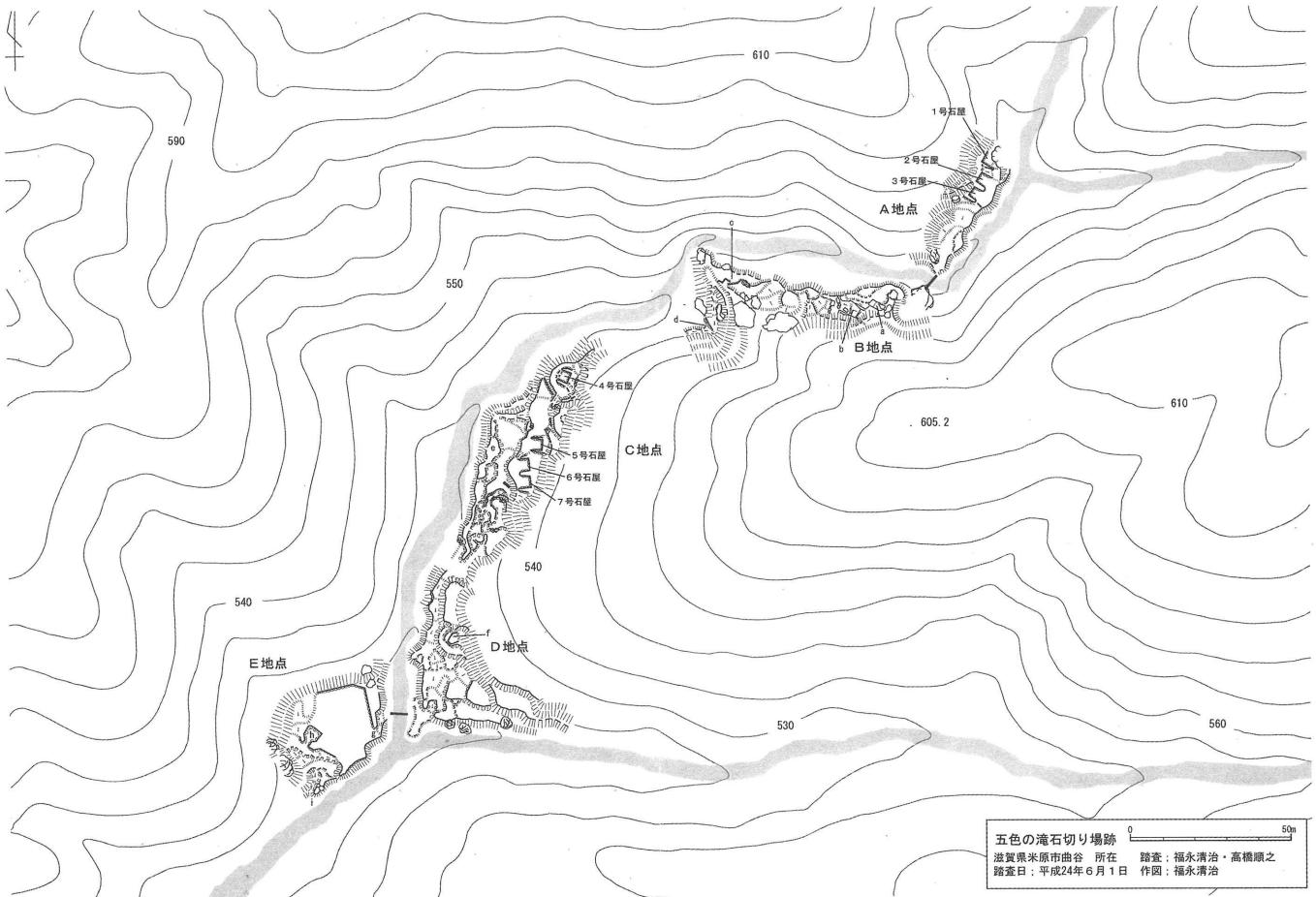
### —石切り場跡—

米原市曲谷は石臼(粉挽き臼)作りの里として知られています。集落の北で姉川に合流する起し又川の上流に、石臼の作業所跡が残されています。もっともよく知られた場所は、県道から2.5kmほどさかのぼった五色の滝周辺です。石臼の失敗品を含めた石材でコの字状に囲った、「イシヤ」とよばれる作業場が川沿いに七力所あり、石を割るために彫られた矢穴を持つ石材が随所に露出し、この場所で石材を採掘しながら、作業場でおおまかな成形をおこなっていたことがよくわかります。

作業場は2m四方ほどの大きさで、人一人が作業するスペースが設けられていたに過ぎません。壁の高さが背丈ほどあるので、屋根は簡単な小屋掛けがおこなわれていたと想定されます。石臼の未製品を多く使うものと、四角い石材をもっぱら用いたものがあります。この五色の滝周辺だけでなく、サナギ谷やイワイ谷でも作業所が見つかっていて、曲谷の北側の山中の谷々で、石臼の素材採取と加工がおこなわれていたようです。

採掘の対象となった石材は花崗岩で、曲谷周辺の花崗岩は「粘っこい」ため、粉を引いても石材がくずれず石臼に適しているそうです。このため花崗岩を産出する東草野一帯でも、曲谷の石材のみが石臼用に用いられています。逆に、曲谷の墓石は曲谷石製ではなく、これは「粘っこい」曲谷石では、稜が鋭く立たないので、墓石には向かないということですが、石仏や石塔などには用いられています。





### 五色の滝石切場跡

中間に石切り場をはさみ、南北2個所にイシヤ(石屋)群が認められます。これらの平坦面構成や通路の敷設は、基本的に自然地形に沿った構造で、方形や直線を意識した形状は認められません。C地点では、個別に平坦面を占有するイシヤも存在しますが、2号・3号イシヤや、5号～7号イシヤに見られるように、開口部の前面通路を活用して相互の連絡・共用が重視された構造が特徴として認識できそうです。D地点・E地点では、炭焼き窯跡が存在し、業種の異なる集団が入り込んでいた可能性も考えられます。E地点では川の合流地点に広い空間を確保しており、双方の谷へと分かれる作業単位ないし集団を集約する機能を想定できます。



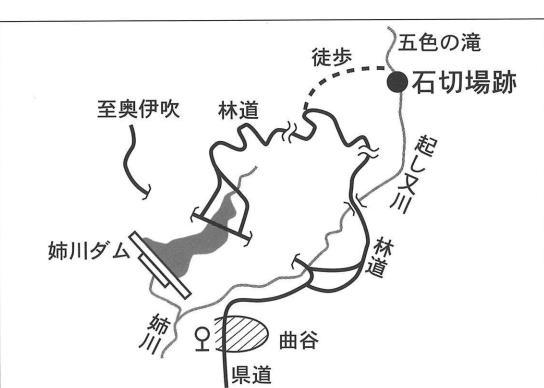
五色の滝



2・3号イシヤ



矢穴跡



### 石臼生産遺跡1 一石切り場跡一

■ 所在地 滋賀県米原市曲谷

■ アクセス JR東海道本線近江長岡駅下車。バス利用。  
徒歩約2時間。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-4552

平成25年度 埋蔵文化財活用事業